

建 労 新 聞

田川建設労働組合

HP <http://www13.plala.or.jp/tagawa-kenrou/>
E-mail: tagawa.kenrou@smail.plala.or.jp

発行所

＝ 全建総連加盟 ＝

田川建設労働組合
教宣文化部

山形県鶴岡市大塚町26-13
電話 (0235) 22-2832
FAX (0235) 22-3370



発刊に寄せて

執行委員長

川上 清太郎

初夏の候、皆様ご健勝で御活躍の事とお喜び申し上げます。
第六十六回定期大会に於きまして承認を頂いた、令和三年度運動方針に基づき、コロナ禍による先行き不透明の中、各代会

ご入学おめでとう

鶴岡支部

菅原 祐樹さん(43歳)

若さん(42歳)

亜門 君(8歳・小三)

碧羽 君(7歳・小二)

今回は菅原祐樹さんの二男、碧羽君(写真左から二番目)を紹介します。

碧羽君は今春、朝陽第一

小学校に入学し、今は幼稚園から加入したFCAサッカースクールで頑張っています。兄の亜門君も祐樹さんがコーチをしている鶴岡Jr. FCに所属しており、庭に手造りのサッカー広場を持つ一家です。

「将来は大工さんか電気屋さんになりたい。ユーチューバーもやってみ



たい」と元気に話す碧羽君。サッカーも勉強もののびのびとやって欲しいとの両親の願いです。

祐樹さんは電気設備工事、ガス器具設置工事を業務とし、電気・ガス両方の資格を持ちながらリンナイのサービスマンとして営業にも力を入れています。

(記・教宣部 関 寛)

活動を開始致しました。

今年二月の新聞報道は、コロナ感染収束は、二、三年かかり、二十一年末から二十二年初めの冬が重要であり、長期戦の覚悟が必要との事でありました。五月に入り、鶴岡市でも待望のワクチン接種関係の書類が届きましたが、高齢者には理解が難しいとの感想です。世界に冠たる揺ぎ無い義務教育、国民皆健康保険、安定した治安とテロが無く安定した政権下の経済大国でありながら、ワクチンを他国に頼り研究をお座なりにしていたことは、大変残念な事態です。今後、コロナ禍により所得格差が広がり、生活に困窮する人に対して自助ありきの姿勢を崩さず、こともなげに支援の最後は生活保護制度がある、大丈夫と発言しています。初期感染者に情報が伝わりにくい国、また、待望のワクチン接種が始まった国に変異ウイルスが確認され、その後、変異ウイルス株が世界で猛威を振るう報道を見聞きしながら水際対策に失敗し、国内感染が広がり、国民生活の先行きに不安感が大きく広がりました。外国産の建築部品、木材構造材、仕上げ材の入荷が遅れ、その分国産材に負担がかかり、工期の開始遅れが発生し始めています。

日頃、退き際を考えていた高齢技能者の皆さん、これを機にと道具箱に蓋をする事の無いよう!!もう少し頑張りませんか。そして、健康第一です。健康診断を受診しましょう。もうそんな引退して夫婦でいわるゆっくり、のんびりを予定しておられる方々が多数おいでと思います。その中のある方は、二年ぶりの健康診断受診結果でがんの治療、手術、術後治療せざるを得なくなった例がございます。老若男女区別は勿論ありません人には、医者に行った方が良いと言うけれど、自分はなかなか行かないものです。ためらっておられる方、受診して下さいね!!

令和三年度も、建設労働組合として今後予想される、新しい日常・生活様式にどう対応していくか大きな問題が山積みであります。元請工事を受注しましょう。建設キャリアアップシステム、所得税申告、インボイス制度導入、団塊世代の引退による組織の弱体化、後継者育成等、共にコロナ禍でも皆様の力を結集して、出来る組合活動を共に頑張りましょう。

第66回

田川建設労働組合

定期大会

令和三年二月二十一日、第六十六回田川建設労働組合定期大会が、グランドエル・サン「クリスタルホール」を会場に開催されました。終息が見えない新型コロナウイルスの影響により縮小開催となり、来賓は皆川治鶴岡市長、菅原正敏山形県建設労働組合連合会副委員長のお二人とし、代議員は定数一二三名中五十七名が出席、六十三名が委任出席、合計一二〇名での開催となりました。感染防止対策として、三密を避けるとともに検温、手指消毒、出席者全員

マスクを着用して行われました。

例年であれば午前中からの開催ですが、今年は午後一時に佐々木博良大会準備委員長の進行により、安全祈願祭、物故者への黙祷が行われました。大会役員が選出された後、資格審査委員長より代議員定数が報告され、大会成立要件が確認されました。議事日程の承認後、関副執行委員長より開会が告げられました。

川上執行委員長の挨拶に続き、来賓より祝辞を頂いた後、祝電が披露されました。コロナ禍のため、全国建設労働組合総連合から来賓を招いての本部報告は行われず、本部から頂いたメッセージが紹介されました。

議事に入り、第一号議案の令和二年度経過報告、決算報告、監査報告の議案が提案され承認されました。休憩後、第二号議案の規約の一部改正案、第三号議案の令和三年度

▲挨拶を行う川上委員長

運動方針案、予算案、第四号議案の令和三年度一時借入限度の議案が提案され、全て承認されました。今年は、監査委員の欠員補充が提案され、満場一致で承認されました。大会スローガンを読み上げた後、議長団が解任されました。表彰式では、令和二年度純増拡大褒賞、ハガキ要請運動連続一〇〇％達成褒賞、令和元年度建設国保特定健診受診率七〇％達成報奨の授与が行われました。特別表彰では、令和二年十月九日に「住生活月間功労者」国土交通大臣表彰を見事受賞された、斎藤留吉さん（鶴岡支部）の表彰が行われました。

菅原県連副委員長の音頭に



▲全体の様子

よるガンパロー三唱後、和田副執行委員長の閉会の挨拶で、全日程を無事終了しました。六十七回の定期大会は、新型コロナウイルスが終息し沢山の御来

安全祈願祭

去る二月二十一日、グランドエル・サンクリスタルホールを会場に開催された第六十六回定期大会に先立ち、安全祈願祭が行われました。昨年好評を頂き、二回目の開催となりました。昨年同様、今回も温海分会の組合員であり、熊野神社宮司の佐々木貞一氏の執り行いとなりました。会場中央には祭壇が設置され、会場の照明も落とされ、厳かな雰囲気醸し出され祈願祭が開始されました。本来であれば人形に息を吹きかける所作も体の一部をなぞるといった所作に変更され、ここでも新型コロナウイルスの影響が及ぶ中、宮司より祭壇の分霊が祀られた扉が開く音が静かな会場に響き渡り、神事が始められ大麻祓い、宮司祝詞奏上と続きました。

賓の方をお招きし、代議員定数を削減することなく盛大な大会になる事を希望しています。

(記・教宣部 新聞 辰夫)

出席者代議員が全組合員を代表し拝礼し、安全祈願の御祈禱をして頂きました。分霊の祀られた扉が閉められ、無事に安全祈願祭が終えられました。神事に際しては、いつの時でも身が引き締まる思いですが、またこれを機により一層仕事の安全に心掛けていきたいと思っています。

コロナウイルス対応で中々制約された時節ではありますが、頑張っていきたいと思います。

(記・教宣部 村上 寛)



▲祈祷を受ける参加者

建設国保通常組合会

副執行委員長 和田 吉 和

令和二年度二月通常組合会
が、去る二月二十四日、三十三名の出席で「けんせつプラザ山形」で開催されました。

令和三年度建設国保の保険料については、全ての区分で現行のまま据え置きとなりました。脳ドック補助金は、特定健診とは別枠で、二年度に一回四万円を上限として補助をしていましたが、令和三年度からは三年度に一回二万五千円が上限の補助となります。新制度への移行に伴い、経過措置を設けました。具体的には、令和元年度の受診者は令和三年度に、令和二年度の受診者は令和四年度に特例として、上限二万五千円の補助で受診できます。又、組合主催の集団健診を受診した方のうち、希望者について胸部レントゲンの再読影（石綿検診）を行っておりませんが、令和三年度から対象を四十歳以上の希望者と変更になりました。

組織体制の検討について、理事定数を二名減、組合会議員定数を四十六名から三十五



▲マスクを着用して参加

新型コロナウイルスのワクチン接種に大いに期待していますが、感染力が強く、重症化しやすいとされている変異株も猛威をふるい、クラスターも発生して感染拡大の折り、組合員の皆様、ご自愛下さい。

第60回

県連定期大会

財政部長 佐藤 晃

四月十三日、天童温泉「天童ホテル」に於いて、山形県建設労働組合連合会の第六十回定期大会が開催されました。世界的な猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響により、国内でも緊急事態宣言の発出など、かつて経験したことのない不測の事態となりました。

今年度は感染拡大防止の観点から三密を避けるため、半日日程の大会となりました。代議員数一〇七名のうち出席四十二名、委任出席六十四名で役員を含め総勢七十一名の参加で開催されました。田川建労からは七名が参加しました。

佐藤県連委員長より、全建総連はじめ北東地協、そして県連においても会議や集会など、自粛や中止、縮小開催となり、組合運動の停滞を危惧するとの挨拶がありました。コロナ禍においても組織拡大推進の取組みとして、各組合の協力により五日間にわたり

「組織拡大キャラバン行動」が出来たことに感謝の言葉がありました。また青年部では、県産杉材を使用した飛沫防止アクリルパネルを各地元市町村へ感染防止に役立てて欲しいと寄贈した取組みにも敬意を述べられました。

議事に入り、第五十九期経過報告・第五十九期決算報告があり、満場一致で承認可決されました。次に第六十期運動方針案と第六十期予算案の提案がありました。村

山の仲間から建設国保関連の質問があり、井上書記長より、被保険者数の減少に伴い、厳しい財政運営を強いられている現状の中、今後十月頃をめどに各支部の組織体制の在り方や支部交付金の見直しについて検討したいとの答弁がありました。また、山形の仲間か



▲各席、間隔がとられているひな壇

らは、県連は今年で結成から六十周年を迎えるにあたり、記念行事等を行うのかとの質問に、十一月頃の開催予定との答弁がありました。その後採決があり、満場一致で承認可決されました。これまでの大会では、五つの分科会が開催され一日目の日程が終わる予定でしたが、昨年同様、縮小され開催されませんでした。最後に、県連組織人員一万二千人の早期復活を目指し、ガンバロウ三唱で大会日程を終了しました。

私の歩んだ道

第九代執行委員長 佐々木 貞一

昭和三十一年三月中学校卒業後、四月に大工の弟子として札幌の叔父に入職、その時代、徒弟制度で一ヶ月五百円の手当であった。六月に出張現場となり、一番若い自分が飯場の炊事の役目で、朝四時に起床し、三度の食事の対応、夜は九時まで翌日の準備の連続であった。人数十五人、十二月の帰郷まで続いた、弟子一年目であった。

今にして知る事は、昭和三十一年一月、田川建設労働組合設立の時であった。

戦後の国土復興と社会の改革、建設労働者の社会的地位の向上を求め、他産業に働く人達と比較して差のある環境打破に結束する時であった。

大工職の多い我が町は若者の冬期教育として、建築共同職業訓練所の設立もあり、第一期生として学び、三年間の課程を修了する事が出来た。

現場で直に應用とはなりませんが、奥深い建築について増々勉学の喜びを得ました。

北海道方面出稼ぎ十五年間、一般住宅の外、官公庁の仕事も多く、設計仕様に忠実に対応する知識は大なるお蔭です。昭和四十六年、都合により出稼ぎを終え、地元工務店に働く事となり、その時点で訓練校講師を当局で模索していたとの事、私へ依頼の相談があり悩みました。経験の無い事、学歴の無い事、能力の無い事、心配が先走り苦慮した。今にして思えば、此れが自分の人生の大きな転換期であった。役目遂行には、並々ならぬ勉強の連続であった。

我が家は、古くから神職の家柄で、昭和三十六年資格を得て神社に奉仕して来ましたが、更に上級の資格取得の為、三ヶ月の修業に入る事から、工務店を休職し専念となり、終えました。復職は難しく止むを得ず、自ら仕事に当る事となった。

冬期間三ヶ月は訓練校、他は自分の仕事をしながら、十五年間温海の訓練校講師として勤め、この経験が大きな財産となった。

昭和五十二年、温海丸貞建業として事業所登録、平成元年、有限会社として法人登録、仕事量も多く、職人も十名余となった。

平成四年、佐藤寅蔵氏委員長退任に代わり、温海地域より本部委員として就任、技術対策部長となり、組合の求める諸問題に取り組み、先の訓練校での経験が大いに役立った。

全国の仲間との交流の場を得て、地元の情報伝達が出来た。

平成十二年田川建労委員長、同年に山形県連委員長、山形県建設国保組合理事長として、



▲手掛けた建物の写真を手にする佐々木さん

就任経験を頂いた事は、信じ難き事であり、良きぞ任務を果たせたと感謝です。

「世の求めに応ずる」

と云う格言があるが、真に、自ら進んで求めた事でなく、取り巻く皆さんの総意によって為し得た事であり、その温情と協力の誠意に感謝の外ありません。自らの運命は知る由もありませんが、世の中の一人として、求めに応え、可能な限り誠意を尽くす事だと思ふ。

本年八十一歳、若き志を以って大工を職業とし、現在まで健康で仕事の出来る事は、天から得た恵みと只々感謝の外ありません。常に何事にも、向上心を抱き、極める努力をすることが衰退をカバーする事と確信する処です。そこには真に、匠の心がその事と実感するものです。

田川建労加入により、全建総連の運動に参加、全国の仲間の皆さんと交流が出来、多くを学び、人生の糧となりました。日本の心として「和」を尊ぶ真心を持っておられる皆様でした。人生の出会いは



▲佐々木さんの作品

現在も便りの交換で確認し合い、過ごせる幸せを実感する処です。

人生を振り返るに、全て自分一人の力は微々たるものであり、取り巻く皆様の理解と協力に感謝するものです。

組合活動にしても、設立当初の御苦労は計り知らず、その厳しさを克服し、六十六年の歳月を迎え今日に在る事は正に団結の力であり感謝です。

我が人生も、全て皆様の御支援の御蔭です。若い時は気付かなかつたが、この齢になり知る事です。この様な心胸を述べながら若い世代の皆さんには、一時でも心に止めて頂ければ幸いに思ふ処です。

鶴岡市申し入れ行動

副執行委員長 関 寛

昨年十二月十五日、皆川鶴岡市長と面談し、要望書を手渡しました。組合から川上委員長以下四名、市からは市長、村上建設部長、坂井課長が出席しました。要望事項の概要は、①リフォーム支援事業を継続・発展して頂きたい。②市発注の公共施設の建設に組合員と地元建設技能者を活用して頂きたい。③若手建築技能者育成のため、庄内職業高等専門学校への法令外負担金を継続・増額して頂きたい。④

第六十六回定期大会に出席を賜わりたい。これらの要望に対し市長から、組合の青年部の皆さんから飛沫防止アクリルパネルを寄贈して頂きありがとうございました。田川建労からは地元材利用、住宅環境の向上への

尽力に感謝を述べ、リフォーム制度も従来通り推進していききたいと話されました。定期大会には調整して参加したいとの申し出があり、その後の懇談も和やかに行われました。田川建労は鶴岡市、三川町、庄内町、大蔵村の一市二町一村と連携し、建築業界の発展と住環境の整備に努めています。今後も申し入れ行動を続けていきたいと思っています。



▲市長にアクリルパネルを渡す渋谷青年部長

二町一村申し入れ行動

賃金税金対策部長 佐々木 博 良

去る四月二十八日、執行三役と共に三川町と大蔵村の役場を訪れ、各首長と建設課長の両名にお会いして来ました。昨年はコロナの影響で文書での申し入れとなりましたので、私にとっては初めての体験でした。

午前中は三川町役場を訪れました。町長さんとは私が余目支部長時代、三川支部総会の折、二次会までお付き合い下さり、その人柄に引き付け

られた思いがあります。新しく発売された清酒の事や自身のご子息も建設業に就いている等々、私達の申し入れに快諾して頂きました。さすが阿部さん！

その後、いざ大蔵へ向かいました。途中、青葉眩しい最上峡を見ながら昼食、天ぷらそばを食べ、大蔵村役場へ到着後、土田支部長の案内で、村長と面会しました。コロナの予防接種が十分進んでいる

と説明を受け、我々の申し入れに協力の約束を頂きました。地元を大切にされている事が笑顔に表れていました。大蔵村加藤村長様、地元建設職人の事、これからも宜しくお願ひ致します。

残る庄内町への訪問は日を改めて、四月三十日午後之余目、立川両支部長の案内で庄内町役場新庁舎を訪れました。新築の香りプンプンの中、約束の時間を間違えたのか少しの休憩で新庁舎からの眺めを満喫しました。迎えてくれた原田町長からも申し入れを快く受け入れて頂きました。

庄内町では、住宅建設の消費波及効果は裾野が広いので景気対策に良いのでは？と約十年前、私達建設業界の低迷期に住宅建設祝い金制度を国内初の試みとして導入されました。その後、全国的に広がって現在に至る訳ですが、私が支部長時代、当時は制度に反対の声が多々あったとお聞きしました。正に産みの苦しみがあったものと察します。

地元で働く我々職人の組合は行政と共に手を携え、賃金含め地位向上を目指して行かなければと思えた申し入れ行動でした。各町村関係者の方々に改めて感謝申し上げます。



▲要望書を受取る大蔵村加藤村長



▲要望書を渡す川上委員長

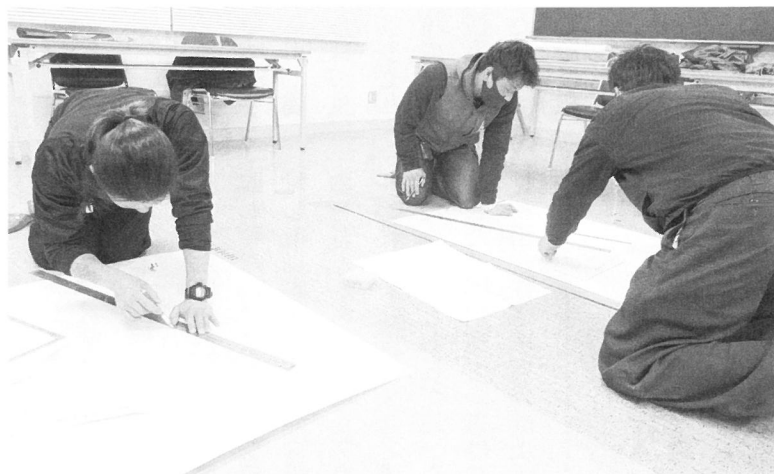
青年技能競技大会練習会

青年部部長 渋谷 真

昨年度はコロナウイルス感染症の影響により中止となつてしまつた青年部技能競技大会ですが、今年度は開催されると期待しています。

今年度は四月から練習会を始めています。今年は、若い新人が二名も増えました。講師も若手で、全国大会出場者の山本豊明君になり、仲良く練習を行つていま

す。今は、色々と行動が制限されている状況である為、四月に予定されていた県連の事前講習は中止となつてしまいました。八月には県大会を行う予定です。その結果で、全国大会への出場が決まります。今年も、田川から全国大会へ出場できるように頑張つていきますので、応援の程よろしく願います。



▲練習会の様子

昨年は開催できず残念でしたが、今年はその分も盛り上げていきたいと思ひます。

今年の田川大会は行いませんが、県大会と全国大会は少し寂しいですが、関係者以外ので立ち入りを大きく制限する事で、開催する予定です。頑張つて行えたらと思ひま

支部・分会だより

大蔵支部

支部長 土田 義勝

この度建労新聞にて、大蔵支部を取り上げて頂き、ありがとうございます。何故、大蔵支部が田川建労に属しているのか、不思議に思ふ組合員さんもおられると思うので、経緯について簡単に説明したいと思ひます。

遡る事平成二十四年に、当時、新庄最上建設総合組合に属しておりましたが、理事会にて当時の新庄最上の理事長の独断で、国分前支部長と今野理事が除名処分を受けました。また、他の支部でも数人が同じく除名処分を受けたと聞きました。二名の突然の処分を受け、支部の臨時総会を開催しました。処分理由はあま

りにも理不尽なもので、支部組合員全員が唖然としたのを覚えています。国分氏と今野氏は我々二人が組合を辞めるので支部組合員は、このまま新庄最上大蔵支部として活動して欲しいとのことでしたが、話し合いの結果、支部の代表を除名処分する様な組合で、活動出来ないとの意見が多数を占め、支部組合員全員が新庄最上建設総合組合を脱会するという結論に達しました。

この様な窮状を県連に訴えましたところ故、三浦委員長をはじめ井上書記長、そして当時の田川建労の執行役員の皆様の御尽力により、様々な問題もある中、私達大蔵支部を受け入れて頂きました。ありがとうございます。また、

平成三十年より東田川協議会にも参加させて頂き、今日に至ります。

今では、支部組合員さんも田川建労の大蔵支部という意識が定着し、ハガキ要請や署名活動なども嫌がらずに協力してくれました。また、建設国保や労災保険の手続きなどを事務員さんから丁寧の説明してもらい安心したと、支部組合員さんからよく聞きます。事務員さんありがとうございます。今後も本部の活動に協力し、田川建労の大蔵支部として活動を続けていきますのでよろしくお願い致します。



親子二代

第56回

羽黒支部

渡部

則宜^{のりよし}さん(43歳)
 宜^{まさ}さん(64歳)

今回は、羽黒地域在住の渡部さん親子を紹介します。

渡部さんが営む有限会社渡部鉄工は先代の俊雄さんが鍛冶屋をしたのが始まりだそうです。

その後、宜さんが引継ぎ、平成十七年一月に現在の会社を設立しました。最近では、豚舎、畜舎の鉄柵加工、補修、農機具の鉄部分の補修・加工、地元の建設会社からの鉄鋼加工依頼関連の仕事が多いそうです。

息子の則宜さんは高校卒業後、酒田の能力開発センターで一年間学習した後、今の仕事に就いたそうです。仕事についての魅力を聞いたところ、いろいろある中で、特に溶接に関してはいろんな種類があり、神経を集中させなければならぬ大変な面があるが、その分すごくやりがいを感じる作業だと話してくれました。業務においては社長の宜さ

ん、則宜さんと則宜さんの奥さんの瑞紀さんが専務を務め、職人を一人有して行っており、四人全員が組合員になっています。

支部の活動では、宜さんは役員経験者で、則宜さんは青年部の会計をやられたこともあり、建労の組織活動においても前向きな意見を多く聞かせて頂いています。いつか支

部の役員会で宜さんが建設国保のメリットを多く語られたことがあり、よく理解されているのだなと感心させられることもありました。

二人共、建労は我々にとってはなくてはならない組織であり、メリットもたくさんある。しかしながら最近、建設国保やその他のメリットが減少している中で、組織を挙げメリット向上へ向けての運動を期待しているとの熱いご意見も頂きました。

(記・教宣部 富樫 正志)



▲作業場での渡部さん親子

赤ちゃん誕生

おめでとうございます

第9回

菅原 清貴^{きよたか}さん(30歳)

彩夏^{あやか}さん(31歳)

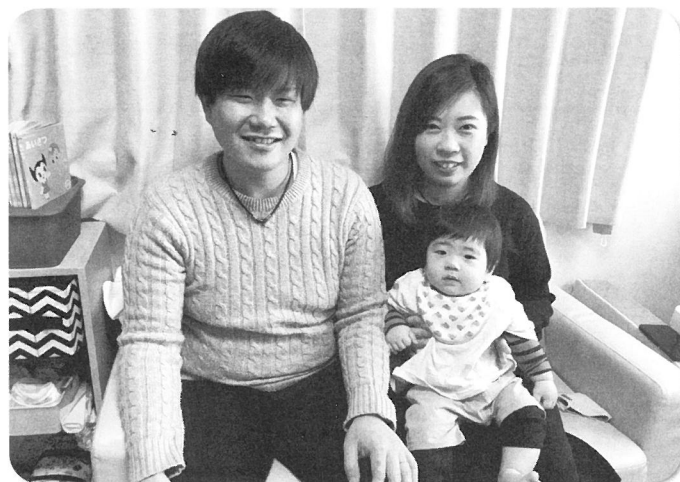
權成^{かいせい}くん(0歳)

今回紹介させて頂くのは、余目支部の大工、菅原昌昭さんの息子さん御家族です。

清貴さんは、高校卒業後、訓練校を経て、昌昭さんの下で経験を積み、現在は立派に大工として現場で活躍されております。

そんな中、建築会社の営業をされている彩夏さんと業者の飲み会で意気投合、付き合つて約半年というスピード婚の後、權成君が授かりました。

予定日の一ヶ月前に、山形市で買い物中に産気付き、急遽山形市で出産したそうです。何と、その日は彩夏さんの誕生日だったそうです。



權成君には、自分の意志で進むべき道を切り開ける、必要不可欠な存在になって欲しいと願い名付けたそうです。清貴さん、彩夏さんは菅原建築さんにはなくてはならない存在です。これからもどんどん躍進して頂きたいと思います。

(記・教宣部 須田 善弥)

第25回 グラウンドゴルフ大会

組織対策部長 佐藤 力

二年ぶりのグラウンドゴルフ大会は、コロナ禍で開催できるとも不安でしたが、

庄内地区においてコロナ感染が終息しつつあるという判断の中、五月三十日(日)に開催することが出来て大変うれしく思います。

曇天模様の寒空の中で、六十名以上の組合員の皆さんに参加を頂き、大変ありがとうございました。大会の成績は、

女子

- 一位 村井 文子(立川) 五十一打
二位 伊藤 純子(山戸) 五十三打
三位 長南久美子(立川) 六十打



▲選手宣誓を行う参加者

男子

- 一位 長谷川與市(豊浦) 四十一打
二位 佐藤 勝弘(余目) 四十一打
三位 太田 繁雄(立川) 四十二打

ブービー賞

成沢 良彦(板金) 六十一打

ブービーメーカー賞

上林美代子(立川) 六十五打

入賞者の方、大変おめでとございます。

そのほかの方にも多くの賞品を準備しましたので、来年度もお誘いあわせの上、多数の参加をお願い致します。



▲プレーの様子

おまかせ事業者名簿登録

組合では、仕事確保・元請工事の受注促進を目指して、一般住民の方向けに事業者名簿を作成しています。組合には様々な職種、技能を持つ組合員が加入していますが、個人では安価で広告宣伝を行うことがなかなかできません。

作成した名簿は組合に備え付け、住宅ディーや各種イベントが開催される時に配布して広報します。

組合では、古くなったホームページのリニューアルを行っています。名簿を掲載し、スマートフォンでも閲覧できるようにしているところですが、コロナ禍でIT技術がますます盛んになっている現在、少しでも組合員の皆さんの仕事確保につながるよう多くの方の登録をお願いします。詳しくは組合へお問い合わせ下さい。

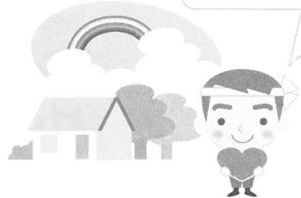
組合では、『住宅関連の事なら何でも地元職人におまかせ下さい』と銘打ち、事業者名(一人親方含む)、業種、連絡先、ホームページやEメールアドレス、三十字程のコーマシーアルメッセージ、冬場の除排雪の可否が掲載されています。

・掲載料 年間一千元

2021年保存版

おまかせ事業者名簿

住宅関連の事なら何でも『地元職人』におまかせ下さい



お問合せ先

田川建設労働組合
鶴岡市大塚町26-13
TEL: 0235-22-2832 / FAX: 0235-22-3370
http://www.13.plala.or.jp/tagawa-kenrou/

編集談話室

この原稿をゴールデンウィーク中に書いています。季節も良くなり、遠く離れていた家族や友人、親戚や孫たちとも久しぶりに会うことができると楽しみにしていたのに、コロナ禍がなかなか収まりません。組合活動も昨年同様、限られたものになりそうですが、可能なことから再開したいと考えています。

今回の新聞では、元執行委員長長の佐々木貞一氏に寄稿して頂き、特集記事を掲載しました。今後、シリーズ化を検討しています。氏は定期大会の安全祈願祭で神主として、組合員の職場での安全とコロナ退散、住民の安寧を祈願しております。八十歳の今も大工職・神職共に元気で活躍しています。見習いたいものです。他に「赤ちゃん誕生」や新企画の「ご入学おめでとう」等の明るい話題も盛り込みました。協力して頂いた方々にお礼申し上げます。

新聞が発行される七月には、コロナワクチンの接種が大幅に進んでいる事でしょう。希望を持って生活したいものです。

(記・教宣部 関 寛)